

ここに集まったわたし達の共通点は、女性であること。
そして、この町とそこに暮らす自分自身の人生をととても大切にしているということだと思います。
この会では、暮らしの中で生かせる知恵など、
わたし達女性の感性で自由にしなやかに発想して学んだり身につけていけたらと思っています。

あの震災の日、わたしも、おっくうがる母をなだめつつ励ましつつ役場まで避難しました。
もともと防災についてはたいへん関心があったのですが、
そこでその日に感じた思いが育って今日、この集まりになったことを嬉しく思っています。

「防災のための勉強会」といっても、
たとえば、わたし達がいつもそうしているように、
料理をつくるなら、材料をそろえて下ごしらえをしておくように、
服をつくるなら、型紙をつくって仮縫いをしておくように、
そんなふうに防災のためにも、準備をしておきましょうというような集まりです。

男性には男性の持ち場があるように、行政には行政の立場があるように、
わたし達はわたし達らしい角度から、
気づいたり考えたことを提案したり学んだりしていけたらと思っています。

「若草会」という名前には、
わたし達が幅広い世代で、「長女世代・次女世代・三女世代・四女世代」という四世代で、
この町に住むわたし達の若草の物語をつくっていこうという思いを込めました。
それぞれの世代の特性を生かした交流のなかで、
見守っていただいたり、教えあったり、また若い世代の迷いを懐かしく聞いたり、
日ごろあまり触れ合わない世代同士での会話など、とても楽しみにしています。
四世代が、同じ美波町に住んで、
笑い合ったり、励まし合ったりの仲の良い姉妹のように
未来につながる楽しい物語をつくっていけたらと思います。

今、防災・減災のためにこそ、
その「ネットワーク・つながり」をつくっておくことが必要なのではないかとと思っています。
それが、今のわたし達にできることの一步だと思っています。

防災若草会 発起人

野口登美子

3. 11の震災の日以来、寺下さんと何度も会って同じ思いを確かめました。わたしが、
「東北の方には、なんだか申し訳ないね、わるいみたいね、きっかけにさせてもらって…。」と考えていたら、
寺下さんに「あなたたちのおかげで、会をつくることができました！“ありがとう”ですよ。」と言われました。
そんなふうに、ほんとうにいつか、“ありがとう”を伝えられるような会に成長できますように…。